

# 山梨県立博物館

Yamanashi Prefectural Museum

交

い

かいじあむ通信

kai

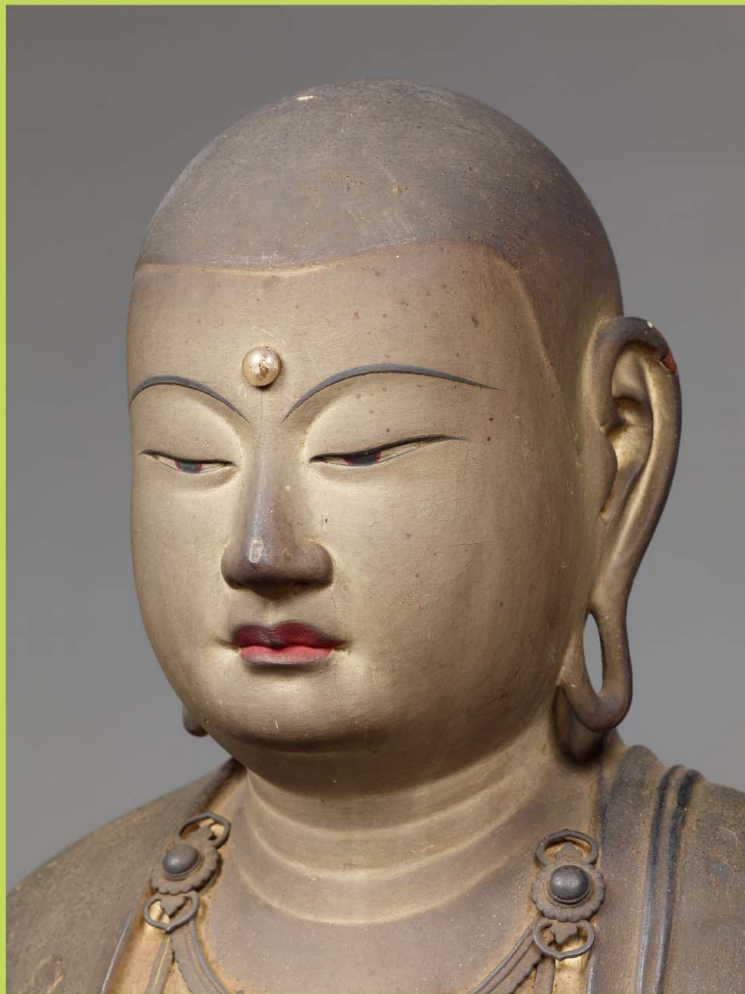
第60号

2024年8月23日発行  
山梨県立博物館

重要文化財  
地藏菩薩立像(部分)  
快慶作  
東大寺

展示期間 10/30~11/25

写真提供:奈良国立博物館





企画展  
令和古寺巡礼  
奈良大和路の  
みほとけ



令和6年 9月28日 ◆ ～ 11月25日 ◆

入江泰吉《古都遠望》(部分)

穏やかな自然に育まれ、悠久の歴史に彩られてきた奈良大和路に伝わる仏像は、多くの文士たちの心を捉えてきました。ここでは、本展で紹介する仏像について、彼らが記した文章を掲載します。ぜひ展示室で文士たちが受けた感動を味わってみてください。

山梨県立博物館で  
文士たちの  
感動を  
追体験する

重要文化財  
菩薩半跏像 (伝如意輪観音菩薩、岡寺)

奈良時代 (8世紀)

展示期間 9/28 ~ 10/28 写真提供: 奈良国立博物館



豊かな頬

夢みるような眉や唇

亀井勝一郎著『大和古寺風物誌』

「豊かな頬と、夢みるような眉や唇をもったこの御仏は、実に可憐で、小仏中の傑作といわれるのも当然であろう。瞑想を通り越して、あどけなく眠っているようにみえる。その前に伏して念ずるよりも、平生机の上にもでも安置して、ときどき頬を撫でてあげたい—そう思うほど親しい印象をうけた。」

『亀井勝一郎・宗教選集 第四巻 大和古寺風物誌』(春秋社、一九六三年)より

亀井勝一郎 一九〇七—一九六六。  
文芸評論家、プロレタリア文学運動に参加後、日本の古典や仏教思想・芸術に傾倒。



〈飛天 琵琶〉

愛らしいしめやかな なつかし味

『初版 古寺巡礼』(筑摩書房、二〇二年)より

「朴素な点は鳳凰にゆずらない。また鳳凰と同じく顔と手が特に大きい。その著しく目につく下ぶくれの顔には、無雑作に鼻から続けた長い眉、ばかばかしく広い上瞼、それに釣合ような異常に長い眼、そうして顔全体の印象をそこに集めても行きそうな大きい口、—すべてが部分的に拡大せられている。しかも誇張の感じはほとんどない。いかにも単純で素直で、何のこだわりもなく一種の情緒を—愛らしいしめやかななつかし味を、あふれ出させている。」

和辻哲郎著『古寺巡礼』

和辻哲郎 一八八九—一九六〇。  
哲学者・倫理学者。日本の精神史に影響を及ぼす名著を数多く著す。

和辻哲郎著『古寺巡礼』

「鳳凰はその、刃の広い出刃庖丁のような、そのくせ海の底の昆布のように柔らかそうな、大きい三枚の尾をうしろに高くあげて、今飛びおりたばかりの姿勢を保っている。荒っぽくけずられた、体のわりに大きい足は、頭部の半ばを占めている偉大なくちばしと共に、奇妙にのんきな、それでいて力強い、かなり緊張した印象を与える。簡素で、雄勁で、警拔である。」

『初版 古寺巡礼』(筑摩書房、二〇二年)より



〈鳳凰〉

国宝  
金堂天蓋付属  
飛天 琵琶、鳳凰 (法隆寺)  
飛鳥時代 (7世紀) 写真提供: 奈良国立博物館



学芸員  
おすすめの一品

収蔵資料の見どころを

ご紹介します



この期間に  
会える！

2024年 10月23日～2025年 2月17日  
常設展  
「自然の森のなかで」コーナー

古代のゆるきゃら!?

どくろ  
土偶

宮ノ前(七日子)遺跡 縄文時代中期 ※上野コレクション

土偶は縄文時代につくられた、人の形をした資料です。膨らんだおなかや胸、お尻の表現から、女性や妊婦を象ったとする説、精霊やカミの姿とする説などがあります。バラバラに壊された状態での出土が多く、祈りなどのためにわざと壊されたと考えられます。

いろいろな土偶を見てみよう!

土偶には決まった形と文様がありますが、それぞれをよく見てみると、とても個性的です。山梨県内ではたくさんの土偶が出土しています。

笑顔がキュート  
とってもおしゃれ



髪型は  
アップヘア

つり目の子が多いけれど、  
この子はタレ目だね

耳には耳飾りの  
穴があるよ

中期の特徴!

おちょぼぐち

上野コレクションとは?

山梨県の戦後の郷土史をけん引した上野晴朗氏が収集した考古学、歴史学、民俗学等の資料群で合計3201点から成り、現在は山梨県立博物館が所蔵しています。

わたしの  
顔はどこ?

大きく両手を  
広げてポーズ



胸は  
ひかえめ!

おへそも  
かわいい

正面はシンプル  
背中からお尻に  
かけて、流れるよ  
うな文様があるよ。

でっぱった  
大きなお尻

足の甲が  
ブーツみたい

中期後半の特徴!

どっしりと大地を踏みしめている!

猿に託したメッセージ???

しえん  
四猿 ~甲府道祖神祭りの祭礼用具から~

十一屋野口家資料/小山正作/慶応元年(1865)

「見ざる・聞かざる・言わざる」の三猿はよく知られていますが、この猿たちは四匹がセットになった「四猿」です。柳町二丁目(現 甲府市中央四丁目付近)が、道祖神祭りの幟枠の飾りとして所有していました。それぞれの猿には、深いメッセージが込められているようです。

ここが  
見どころ

その1 一木から彫り出した見事な技術!

その2 ユーモアあふれる造形!猿の表情にもご注目

その3 猿に語らせた深いメッセージ

この期間に会える!

常設展テーマ展示

「招福!かいじあむのお正月」

2024年 2025年

12月11日~2月17日

常設展「道がつなく出会い」コーナー

若尾謙之助『甲州年中行事』挿絵



こんなふうに使いました

幟枠に吊り下げる提灯の  
錘として使用された  
と考えられます。

猿に込められたメッセージとは?

意味深な猿たちの仕草。それを読み解くカギは、猿たちが納められた木箱に記されていました。

猿の子が見ているぞ!

見ざる



木箱に記されて  
いた言葉は…

猿子延手 塞親目  
(猿の子が手を伸ばして親の目を塞ぐ)

曇りのない眼で見よ。あるいは、子どもが見てもいいようにしようね、という意味か。

猿が口に運ぼうとしているのは?

言わざる



木箱に記されて  
いた言葉は…

以栗 含口 不語世話  
(栗を口に含み  
世間の事を語らない)

祭りは一年間蓄えた富の放出の機会でもある。祭りくらい贅沢をして、そのかわり日常のうつぶんは水に流そうね、という意味か。

本当は「聞こえている」  
んでしょ?

聞かざる



木箱に記されて  
いた言葉は…

以手 當耳不聞 世惡  
(手を耳にあてて世の悪を聞かない)

良い言葉を聞け、悪い言葉に耳を傾けるなよ、という意味か。

誰かをさそっているのかな?

まどめ



木箱に記されて  
いた言葉は…

古舊誌 三者之徳ありて  
幾春游  
(古に記された三者の徳を  
持って末永く春に遊ぶ)

「三猿」は、人の道に背くことを見たり・聞いたり・言ったりすることを戒める教えとして流布しています。この場合の「三者の徳」とは他三匹の猿が示す教えを指しているのでしょうか。それらを守ることが町と祭りを未来に残していくためには大切だと伝えていると考えられます。

こめられた  
メッセージは…

「見ざる」「言わざる」「聞かざる」を守り、祭りや町の繁栄を末永く未来につないでほしいとの願いが読み取れます。



## 常設展

テーマ展示

県立博物館では、約2か月ごとにテーマを変えて、常設展の展示替えをしています。



### 資料でめぐる山梨の旅

2024.8.21[水]~10.21[月]

展示室の資料をめぐってワクワクの山梨の旅に出発!

### 満腹!万福!やまなしの豊かな食文化

2024.10.23[水]~12.9[月]

食欲の秋到来!特産品のフルーツやワイン、海がないけど海産物が好きな食文化など、山梨ならではの「食」に関連した展示で皆様をお待ちしています。

### 招福!かいじあむのお正月

2024.12.11[水]~2025.2.17[月]

お正月にちなみ、「めでたい」「ありがたい」資料を取り揃えます。年の初めは博物館で招福!

### 山梨の春は、桃と桜と信玄公

2025.2.19[水]~4.21[月]

桜舞う春の中、山梨ゆかりの戦国武将、武田信玄にまつわる資料を紹介します。

## 企画展・シンボル展

2024.9 ~ 2025.3

展示会の名称は変更となる可能性があります。

### 企画展

#### 奈良大和路のみほとけ—令和古寺巡礼—

2024.9.28[土]~11.25[月]

奈良大和路に伝わる仏像は、時代を越えて読み継がれる『古寺巡礼』を著した和辻哲郎をはじめ多くの文士たちの心を捉え、今も私たちに惹きつけてやみません。本展では、奈良大和路の仏像や仏画に秘められた、悠久の歴史や物語が醸し出す魅力をあますところなくご紹介します。日本を代表する仏像の数々を、この機会にご覧ください。



重要文化財 十一面観音菩薩立像 長谷寺所蔵  
写真提供: 奈良国立博物館

## シンボル展 甲斐国分寺

国分寺は聖武天皇の命により全国に創建され、甲斐国では現在の笛吹市一宮町に建てられました。その後、鎌倉時代の焼失と戦国時代の再興を経て、大正11年(1922)に国史跡の指定を受けています。本展では、最新の発掘成果を踏まえた国分寺の創建時の姿とともに、現在にいたるまでの国分寺と地域との関係の移り変わりをご紹介します。

甲斐国分寺跡全景空中写真(南から奥秩父山系雁坂口を望む)  
笛吹市教育委員会所蔵



## 開館20周年記念特別展 武田勝頼—日本に隠れなき弓取—

2025.3.15[土]~5.6[火・振休]

武田信玄の後継者となった武田勝頼については、近年、評価の見直しが進められ、新たな勝頼像が提示されるようになりました。本展では、武田勝頼の合戦として著名な長篠合戦や、新たな居城として築かれた新府城など、勝頼の事績や関連資料から生涯を振り返るとともに、その人物像に迫ります。



歌川国輝 天目山勝頼討死ノ図 当館所蔵

## イベントのご案内 2024.10 ~ 2025.3

各イベントの詳細は当館ホームページなどでご確認ください。

### ボランティアによる お庭の見どころガイド

四季折々の博物館のお庭を散策します。

開催日 10/19、11/16、12/21、1/18、2/15、3/15

時間 13:30~14:30

### かいじあむ古文書講座

初めて古文書を学ぶ方のための講座です。

開催日 10/26、2/22

時間 13:30~15:00

申込 ☎ 055-261-2631

### 古文書整理体験教室 定員10名

開催日 12/12

申込 ☎ 055-261-2631 \*10/12より受付を開始します。

### 古文書相談日

お手持ちの古文書についてご相談ください。

開催日 11/17、1/19、3/16

時間 10:00~13:00

\*古文書の全文解読、鑑定など、お受けできない内容もあります。

\*申込不要ですが、事前のご連絡があれば対応がスムーズです。

(☎ 055-261-2631)

### 常設展スルーガイド

常設展のガイドツアーです。

毎週土曜日 11:00~11:30

### あそぼう!まなぼう!寺子屋ひろば

展示や歴史を楽しみながら学べる体験イベントです。

毎週日曜日 11:00~11:30

### かいじあむ子ども工房

博物館ならではの体験や工作ができます。

開催日 10/12、11/9、1/11、2/8、3/8

### 館長トーク

当館の守屋正彦館長による講座です。

開催日 11/23、1/25、3/22

時間 13:30~15:00

### その他イベント

・かいじあむの秋まつり 11/20

・かいじあむのお正月 1/2・3

2024年

10月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

11月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

奈良大和路のみほとけ—令和古寺巡礼— 9/28~11/25

甲斐国分寺 12/21~2/24

2025年

1月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

3月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

甲斐国分寺 12/21~2/24

武田勝頼 3/15~5/6

休館日

● 館長トーク

● 古文書講座

● 古文書整理体験教室

● 古文書相談日

● 子ども工房

● お庭の見どころガイド

□ その他イベント

日程や内容は事情により変更になることがあります。



# かいじあむトピックス

山梨県立博物館の旬な  
話題をお届けします



## 新千円札と神奈川沖浪裏

令和6年7月3日、千円札・五千円札・一万円札が改刷となり、20年ぶりにデザインが新しくなりました。

新千円札の裏面には、東京国立博物館と山梨県立博物館が所蔵している葛飾北斎筆「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」をもとに、波の絵がデザインされています。本作は木版画で当時多く摺られたことから、現代においても多くの美術館・博物館が「神奈川沖浪裏」を所蔵しています。そのなかで、当館所蔵のものが新札のデザインに採用されたということは、大変喜ばしいことです。なお、これを記念し、日本銀行から若い番号の新千円札が、当館に寄贈されました。



葛飾北斎筆「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」(当館所蔵)



寄贈された新千円札(裏面)



寄贈された新千円札(表面、部分)

## 利用案内

開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日 火曜日(祝日の場合はその翌日)

\*9/11～13、12/14、12/25～1/1、2/12、2/26～3/3は休館。2/11は開館。

観覧料 常設展：一般520円、大学生220円

\*高校生以下の方、65歳以上の方、障害者の方(およびその介護をされる方)は無料です。

\*企画展には別途観覧料が必要です。県外在住の65歳以上の方は企画展観覧料が必要です。

\*割引料金等につきましてはホームページなどでご確認、またはお問い合わせください。

かいじあむ通信「交い」第60号 〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田1501-1

Tel:055-261-2631 Fax:055-261-2632

発行日:2024年8月23日 E-mail:kenhaku@pref.yamanashi.lg.jp

編集・発行:山梨県立博物館 URL:http://www.museum.pref.yamanashi.jp



山梨県の古い国名「甲斐国」の語源は街道と街道の結節点を意味する「交い(かい)」であるという説があります。

山梨県立博物館が「甲斐」の博物館にふさわしく、人々や情報の交流の拠点となることを願ってこの名前をつけました。



ホームページ2次元コード